

「を」の発音 及びその地域との関連性

本山実悠

はじめに

私の研究では、助詞の「を」の発音は「オ」「ウォ」のどちらが主流であるか、また地域との関連性はあるのかという点について検証する。

私は小学1年生の頃、学校の先生にはわ行の「ウォ(WO)」と教わったが、母には「お」の音と同じ「オ(O)」だと言われた。私は愛知県、母は埼玉県の出身であることから、発音の認識は地域によって異なるのではないかと仮説を立て、これを確かめたい。

方法

Google formを用いて、東工大生45人にアンケートを取った。アンケートでは、「を」の発音を「オ」「ウォ」どちらと認識しているか、会話の中では実際にどのように発音しているか、回答者の出身の都道府県を尋ねる。また、両親の出身地、幼少期に住んでいた地域など自分の言語に影響を与えたと思われる地域も合わせて回答してもらう。

その結果をもとに都道府県別に「オ」「ウォ」の比率を色分けして地図に示す。ただし、「東京都出身だが母は北海道出身」というような回答では、東京都と北海道に0.5票ずつというように数えることとする。

結果

図1、図2より、「を」の発音の認識、実際の会話中の発音はともに「オ」の方が優勢であり、実際の会話においてはより「オ」を選択している人が多い。

図3より、「オ」「ウォ」の優劣は都道府県によって偏りがあるが、その分布は明確ではない。関東から中部地方にかけては優劣が拮抗している。四国周辺に注目すると、「ウォ」が優勢である。しかし、関西周辺やその他地方では、「オ」が優勢である。

結論：「を」の発音は全国的に「オ」が優勢だが、

地域差がある。

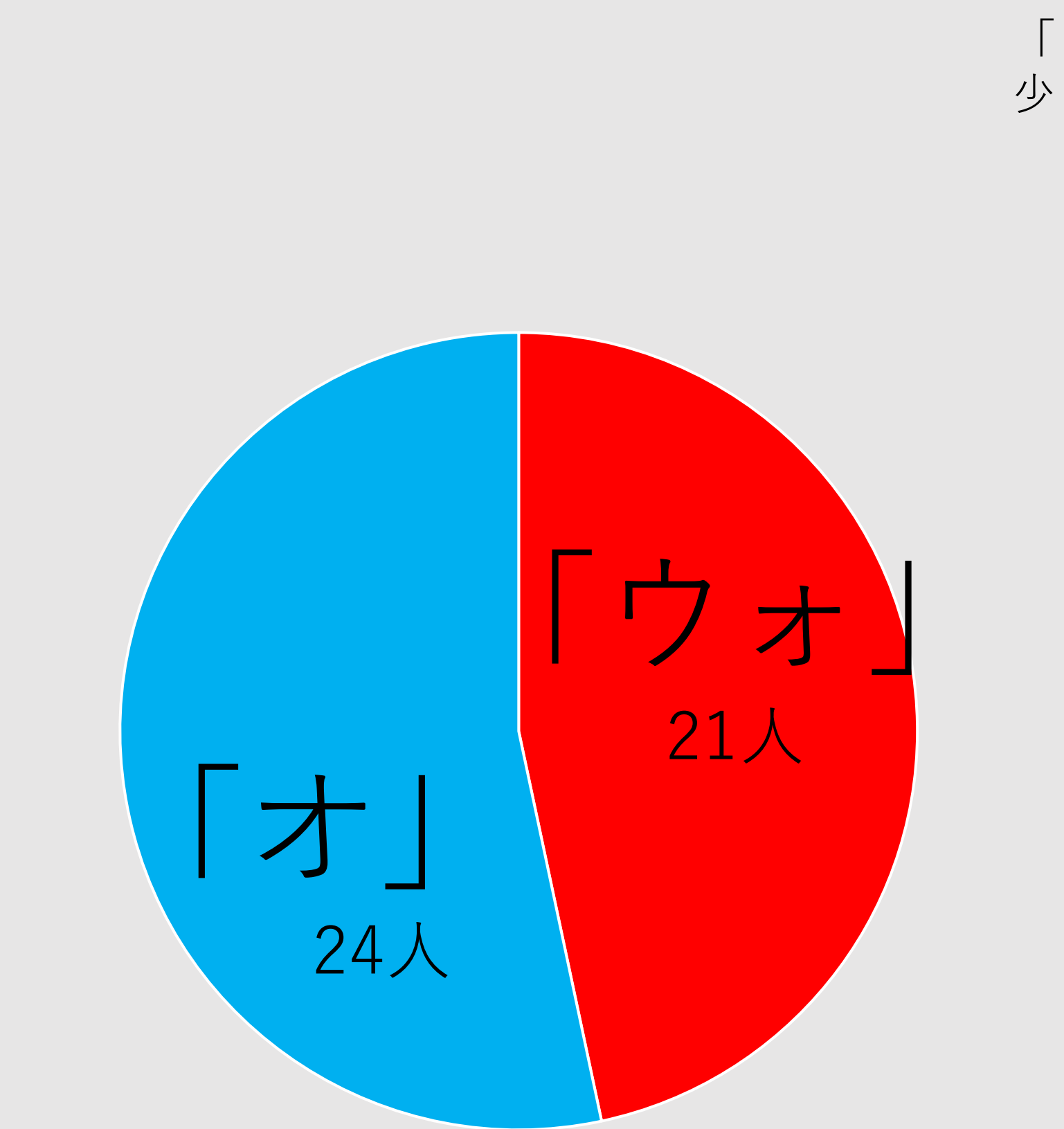


図1 「を」の発音の認識についての回答

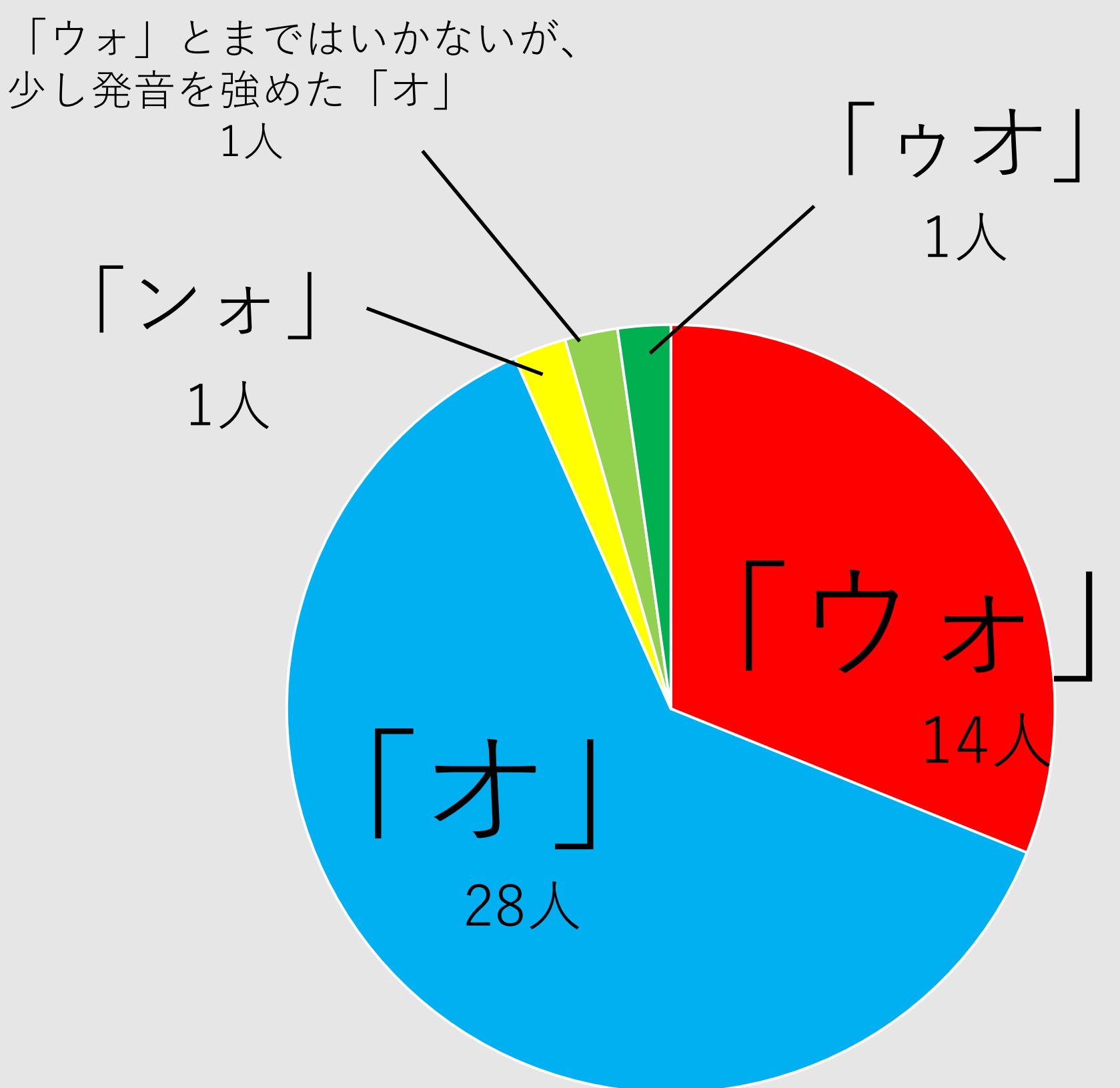


図2 会話時の「を」の発音についての回答

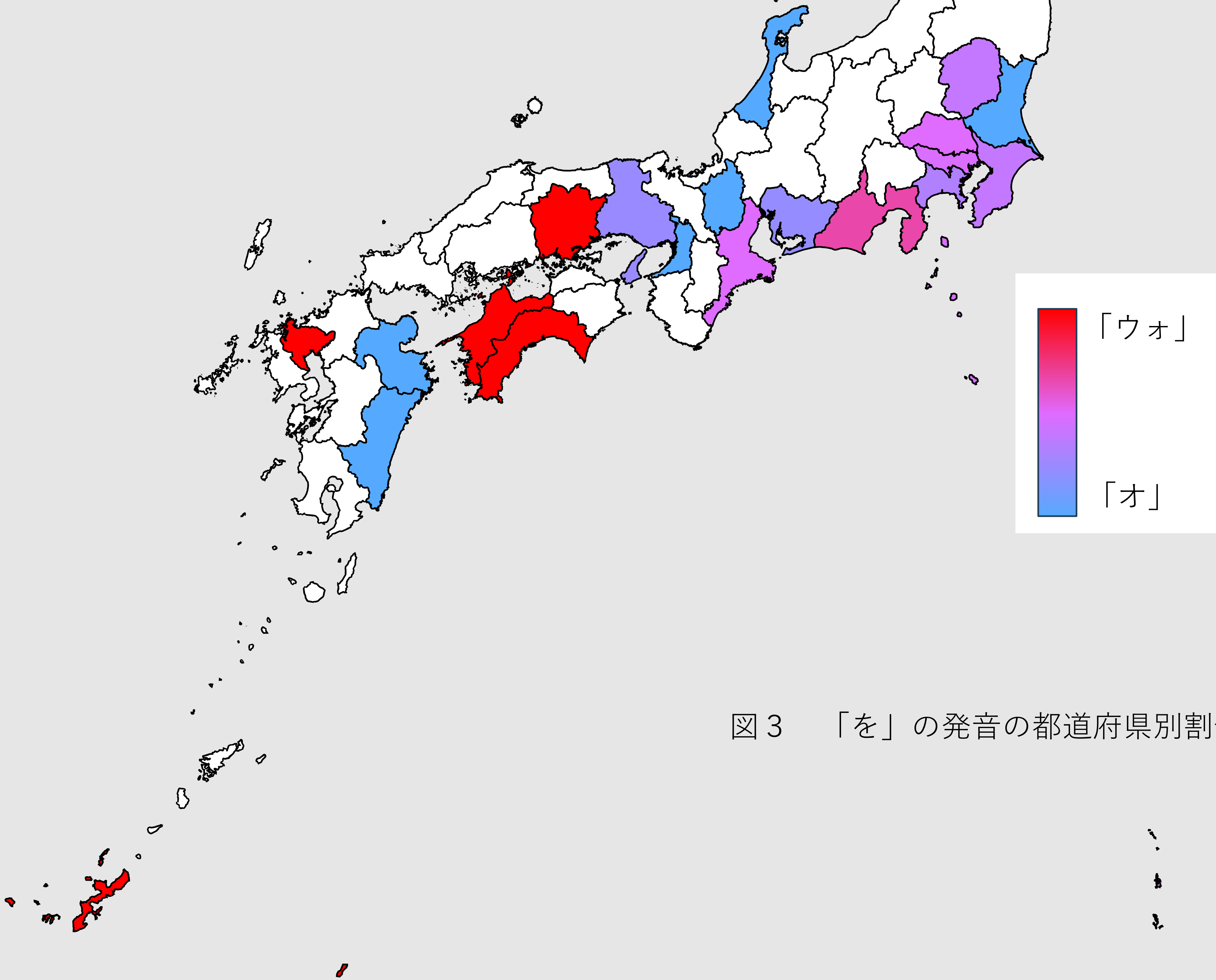


図3 「を」の発音の都道府県別割合

考察

「を」の発音は全国的に「ウォ」より「オ」が優勢だが、その優劣には地域差があることが分かった。

日本語の発音では口をすぼめるのを嫌い、本来日本語には「ウォ」の音は存在しない（城生,2012）。調査では、約半数のの人「を」の発音を「ウォ」と認識しているが。実際に話す際には「ウォ」と発音する人が減少しており、やはり「ウォ」は「オ」に比べて発音愛媛県、長野県、愛知県では「を」の発音を「ウォ」として教育する例があるという（佐藤,2012）。これは、その土地にもともと口をすぼめる「ウォ」という音があるなど、方言的な由来によるものだそうだ。関東、関西というような土地の位置関係によるものではなく、教育委員会単位、つまり県単位だとしたら、私の調査で「ウォ」「オ」が分散していたことも頷ける。

また、今回の調査の反省点は、47都道府県中21県分のデータしか得られず、また地方のデータが少なかったことである。

おわりに

「を」の発音は「オ」「ウォ」など人によって異なる認識されている。これには地域差があるが、明確な理由はわからない。

文献

佐藤栄作, 仮名の呼称－現代の『を』の場合－, 論集,VIII,2012.12, 69-75.
城生佰太郎,日本語教育の音声, 勉誠出版, 2012, 38,94-106.